

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1173600261		
法人名	有限会社フクシ		
事業所名	グループホーム藤の里		
所在地	埼玉県加須市鴻荃2168-2		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	平成25年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=1173600261-00&amp;PrefCd=11&amp;VersionCd">http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=1173600261-00&amp;PrefCd=11&amp;VersionCd</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社シーサポート
所在地	埼玉県さいたま市浦和区北浦和3-6-9
訪問調査日	平成25年2月25日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

職員が、健康で笑顔を絶やさない一人ひとりを大切に生き生きとしたお顔で暮らすこと。入居者がそれぞれ自分の家の様にくろいで生活されているし、それぞれの役割を持っていただいている。職員は一緒に明るく笑顔で接し、入居者様と互いに身体関係が強く結びついている。外出機会をいろいろ作って楽しみを増やしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

・防災対策や安全管理にも十分に取り組んでおり、特に服薬については、「2度のチェック・使いやすく改良されたピルケース」などにより過誤服用のないよう細心の注意が払われている。  
 ・介護福祉士の受験の奨励・ボーリング大会などの福利厚生の実施など職員の就業環境の整備に対しても努めている。  
 ・「中学校の生徒が来訪し歌を披露してくれたり、近隣の方から野菜をおすそ分けしていただく」など、地域との交流が難しい立地の中でも心温まる親睦が育まれている。  
 ・明るく経験豊富な管理者と職員により、温かく・配慮のあるケアが実施されており、入居者・家族から信頼されるサービスが提供されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の自治会に加入し、お祭り、敬老会等に参加、ホームの行事にも回覧、声かけにて生活に密着したサービスとしてかかわっている。地域の人が馴染みの人たちに囲まれて、暮らしが続けられる支援を理念に掲げている。	事業所の理念・運営方針は、玄関やトイレに掲示をし、また朝礼での斉唱を通して理解を深めるよう取り組んでいる。また職員に対しても「ハートに響く」よう指導と説明を繰り返しながら事業所の考えを理解してもらえよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な散歩や季節行事等に、近隣の人たちと挨拶したり、来ていただいたりしている。畑で取り立ての野菜等おすそ分けも多く、作り方も教えてくれる。行ったり来たりのお茶のみもする。	民生委員の方を中心にホームから声をかけ、地域の方々と親睦を深めるよう努めている。またボランティアや近隣の中学生の来訪などの交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防教室への参加、人材教育の貢献として、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の報告とともに質問、意見、要望を受け、検討事項等も合わせ、取り上げられた内容の充実に取り組んでいる。	民生委員、家族、訪問看護事業者の方々が来訪し、報告を中心として定期的に開催がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター、市町村担当窓口には折に触れ、ケアサービスの取り組みや状況を報告したり相談し、行政の情報もメールで届くようにしている。	運営推進会議への参加の際の報告や意見の聴取を通して行政との関係構築に努めている。また実習生や施設見学も積極的に受け入れており、団体その他に対してもできる限りの協力をする姿勢がとられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に代表者からの伝達と解説で拘束の意義を教示し、職員も徹底的に実践している。	「虐待防止」、「身体拘束の廃止」について施設内研修が行われており、職員の理解の増進に取り組んでいる。入居者の安全とのバランスをとりながらケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待セミナーに参加したり、藤の里でのアンケートを行い、ミーティングで話し合いをし、職員に浸透させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会や包括支援センターへの学ぶ機会に参加したり、家族会などを通し必要性、活用を話し合ったりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用料金や、医療連携体制加算、医療負担、個人負担、重度化に対する対応等、家族に十分な説明と納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者にはお茶・レクリエーションの時間を利用し、家族には苦情箱を設置し、面会時に職員が話し合うなどしている。	ケアプランの承諾時に要望を聞き、ケアに反映するよう取り組んでいる。家族から信頼を得て任せてもらうことにより、よりよいケアへとつなげていく姿勢が貫かれている。	職員全員の顔と名前を家族にも覚えてもらえるよう請求書などの郵送物に職員の写真が掲載されたものを同封することが思案されており、実現が期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・研修会を行う中で、意見を出し合っている。	月に1回職員会議が開催されており、各委員に細分化された業務の報告がなされており、「委員の責務→気づく・発言する→水平展開」のサイクルにより充実したケアの実践につながるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に職員と面接を実施し、評価する。その中で、やりがいや給与基準なども話し合い、環境を整えるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	藤の里内で議題を出し合い、月一回の研修会を行っている。また外部での研修会や実習に参加させ、レベルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協議会に加盟しており、勉強会や情報交換、研修生の受け入れなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努める。サービス利用についての相談には、必ず本人と会って不安や困っていることへの思いに向き合い、家族も含め信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況を把握し、家族が求めているものを理解し、どのような対応ができるか、事前によく話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人や家族の思いと状況等を話し合い、必要としている支援の提案、他のサービスの情報等考え合わせ、速やかに必要なサービスへとつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考え方を職員が共有しており、利用者に教えてもらえるような工夫、声かけに気を配り、職員の年齢層の対応に家族的な信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、協力関係や気づきの情報共有に努め家族を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他の施設に移ったりした人も面会をしたり、家族との交流、行事参加を呼びかけている。	併設の短期入所とのレクリエーション、マジック・習字・絵手紙などのボランティアの来訪、近所の方の訪問など入居者以外の方との触れ合いに対しても支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談にのったり、皆で楽しく過ごす時間や、気の合う同士で過ごせる場面作りをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移ったりした人も面会をしたり、家族との交流、行事参加を呼びかけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声かけ、把握に努めている。	日々の生活の中でのコミュニケーションにより入居者の意向の把握に取り組んでおり、それらは連絡帳に記載され、職員の中での共有化に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者等から聴き取るようにしている。レクリエーションや行事参加で、プライバシーを配慮しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活、心理面の視点や出来る事に注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させている。アセスメント、モニタリング、カンファレンス等を含め、意見交換を行って、介護計画を作成している。	家族の要望の集約・職員一人ひとりの見地からのモニタリング・管理者との相談などを経てケアプランが起草されており、一人の考えに隔たることのないよう配慮し策定がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄等身体的状況や薬の確認をしたり、本人の言葉、会話等ケア記録に記入し、職員間の情報共有を徹底する。介護計画は常時記録とともに見られるようにファイルしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援を柔軟に行っている。医療連携体制を活かして、医療的にも利用者にとって個々の満足を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して、地域で暮らしを続けられるよう民生委員、ボランティア、消防、図書館等、普段から活用したり連携をとっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医、又は協力病院となっている。受診や通院に本人・家族の希望に対応している。	通院時の同行の際や訪問看護来訪時には入居者の健康状態などを伝達しながらコミュニケーションをとり、連携連帯して入居者の健康維持が図れるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談、助言対応をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族とも協働しながら、医療関係と三者一体となって、退院計画を具体的に話をする。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う不安に、藤の里が対応しえる最大のケアについて説明を行っている。	終末期への対応については入居時等、事前の説明を十分に尽くすよう努めており、緊急時の対応や判断についても家族からの信頼に応えるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命研修に参加したり、勉強会を行っている。日中、夜間とマニュアルを作り、職員全員に周知徹底をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、災害時の対応に準備している。	通報装置・スプリンクラーが設置され、ヘルメット・懐中電灯などの備品も整備がなされている。1か月に1回のいろいろな想定での避難訓練・火元チェック表による点検など種々の取り組みがなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉使いや、介護方法などに配慮するように、申し送り時等を利用して活かしている。記録などについての守秘義務を励行しており、管理についても留意している。	職員の入居者への声掛けや介助時の対応について、ホームの考え方と違いが見られるときは随時指導がなされており、入居者に敬意を払うケアの実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者に合わせた声かけ、本人の希望や意思に働きかけ、本人の意思決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時の体調に配慮しながら、個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思決定で衣類を選んでいる。支援が必要な人には、職員と一緒に考えて決めている。馴染みの美容院で染めたりカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好調査に添った食事の提供を心がけている。農家からの頂き物の野菜等は、利用者の好みを聞きながら一緒に調理したりしている。	給食委員会が月に1回開催されており、入居者の評判や好みなどを報告し、よりよい食事の提供となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェックを毎日行い記録し、職員が情報を共有している。給食委員会を月一回設け、メニュー、バランス等話し合っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがいを、職員の声かけ介助により行っている。夕食後の口腔ケア時に必ず義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間、リズムを把握し、トイレ誘導、声がけを促し、トイレ排泄ができるよう支援している。オムツ使用者ゼロ。	日々排せつを記録し、そのチェックからの誘導によりなるべくトイレで排せつできるよう支援に取り組んでいる。またさりげない声掛けによる誘導を実施し、入居者の尊厳に配慮するよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、排泄、水分量の確認をしており、散歩、体操、お手伝い等体を動かす事により、自然排便を心掛けている。便秘の時は本人に合った、下剤で排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人のペースで入浴している。心臓疾患のある人などには長湯をさせない対応をとっている。特に不満等無く入浴を楽しんで頂いている。	浴室は、着替えの場所も含めてスペースが広く、清潔感と暖かみのあるつくりとなっている。隣接のショートステイには機械浴も完備しており、入居者の重度化にも対応できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠の人の原因を把握し、日中の体操、日光浴等活動を高め、安眠に繋げるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに個人個人の処方箋のコピーを入れ、職員が内容把握できるようにしている。服薬時本人に手渡し、服用確認をし、袋を回収している。毎日薬の配薬箱に薬を入替えており、服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割、楽しみを持っている。掃除を手伝う人、食事のかたづけしてくれる人、園芸をする人、洗濯を干したりたたんでくれる人、得意な料理をしてくれる人、新聞月刊誌を楽しみにする人等、楽しんでできる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を味わっていただけるよう散歩、外でのお茶のみ、ドライブ、花見観劇等体調に合わせ出かけている。	行事委員により企画がなされ、花見・初詣・クリスマス会など季節を楽しむ催しがなされている。また家族との外出の際は、車いす専用の車両を貸し出すなどの配慮がなされている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が管理出来る人は、家族の協力を得て持っている。できる人への支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状を書いたり、書ける人は日常的に手紙を書いたり、孫とのやりとりを楽しんでいる。電話も希望時、随時かけられる支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を活けたり、プランター、植木を置いている。ベンチやテーブルを庭先に置き、お茶を飲んだり、会話出来るスペースを造っている。	「大きな窓により日当たりが良い・行事の写真が飾られている・季節の飾りが施されている・暖かみのある装丁となっている」など居心地のよい空間が演出され、行き届いた掃除により清潔なスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールやフロアに、ソファ、長椅子を置いている。一人でいたり、気の合った人達でくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのもの、使い慣れたものを本人の意向、家族と相談しながら、居心地の良い居室に配慮している。	仏壇・ふとん・写真・タンス・ベッドなどが持ち込まれており、思い思いに過ごすことができるスペースが確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって「何がわかりにくいか」「何がやっていただけるか」職員、担当等で話し合い、利用者の目線に立って不安を取り除けるよう、工夫し試みている。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム藤の里

## 目標達成計画

作成日 : 平成25年4月20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との連携が十分ではない。	本年度中に地域の方々を3名以上増やし、消防訓練や納涼祭などに参加できるようにする。	広報誌を毎回配布する。地区の集会に参加する。消防訓練やイベントの案内活動をする。	10ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。